

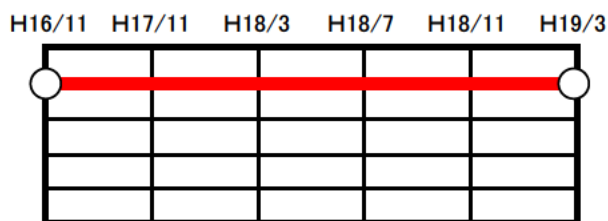
木津川上流ダム

●具体的な整備内容

・既設ダムにおいて、魚類等の遡上・降下が可能な方策を検討する。  
 高山ダム、青蓮寺ダム、室生ダム  
 布目ダム、比奈知ダム

●スケジュール

■ 検討  
 ■■ 委員会  
 ■■■ 実施

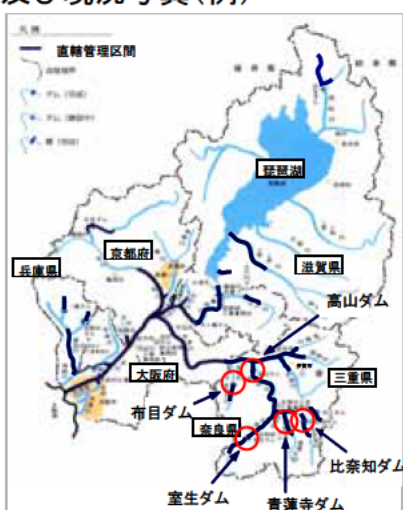


高山ダム、青蓮寺ダム  
 布目ダム、室生ダム、比奈知ダム

●検討・実施内容

- ・対象魚種の選定
- ・魚道での対策施設の検討  
 効果  
 施設配置
- ・魚道での対策不可の場合の  
 代替案の検討

●位置図及び現況写真(例)



室生ダム

●ダムによって河川の縦断方向の連続性が阻害されており、魚類等の遡上・降下が不可能な状況である。

●ダムにおける魚道設置事例



写真-1 階段形式の魚道例

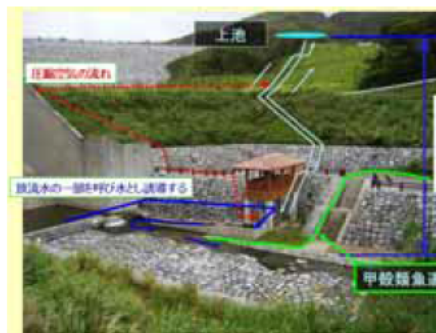


写真-2 エアリフト式魚道の例



写真-3 多自然型魚道の例

整備効果

ダムによって魚類等の移動を困難にしているため、魚類などの遡上・降下が容易にできる可能性の方策を検討し、事業を実施することにより、河川の連続性の修復を図るとともに、上下流域で河川本来の多様な機能修復が期待される。

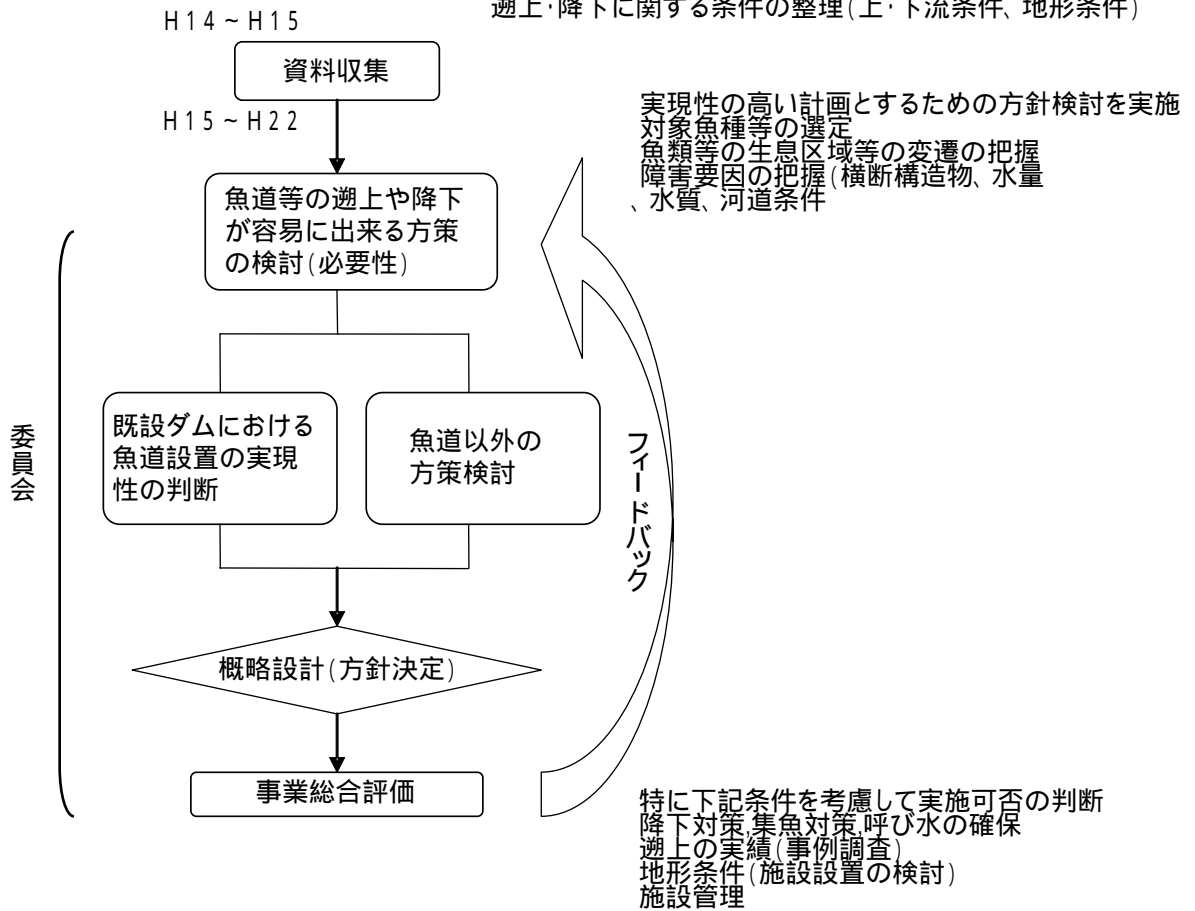
提案理由(代替案含む)

ダムなどの横断工作物は魚類等の移動を妨げる障害物となっている。そのため魚類等の遡上や降下が容易にできる方策を検討し、移動の障害を軽減させ魚類のライフサイクルを本来の自然な形に回復させることにより生態系の保全を図る。

1. 具体的な検討手法

現況の把握(魚介類、横断施設、水理特性)

遡上・降下に関する条件の整理(上・下流条件、地形条件)



### 委員会等からの意見

ダムに関する検討は今後の最大対応課題である。影響調査は、水質面および生息・生育生物面での連続性欠除要素についての確認調査の両者を、早急に同時実施することが必須条件である。ハイ・ダムによる魚類等生物の遡上・降下の遮断を解消・再生することは最大の重要課題である。ダムへの魚道は、技術には、一部は閘門式で対応可能であろうが、落差高のある場合はリフトあるいはエレベータ式魚道で対応せざるをえず、コスト的には魚槽トラックでダム下流への運搬に頼らざるをえない場合も視野に入れて検討するべきである。

なお、上記の方策検討には、魚道工学・水産経済学の専門家を加えた検討会議が望まれる。  
【淀川部会】

### 進捗状況

対象の5ダムは堤高70m級のダムであり、我が国において魚道が設置された事例はなく、縦断方向の連続性の可能性のとしては、魚道設置効果に対して事業費が非常に大きいことから困難な状況と考えられる。

しかしながら、特に、魚類等の遡上に対し、最下流に位置し、かつ最も影響が大きいと想定される高山ダムについて、魚道配置の実行性、魚道設置効果等の検討を行った。

高山ダムへの魚道配置については、以下の配置案について可能性の検討を行った。

左岸側：左岸側地山に設置。

右岸側：右岸側地山に設置。

堤体：堤体を改修して設置。

また、写真 - 1、2、3に示した魚道形式についても高山ダムへの魚道配置の可能性について検討を行った。

可能性等の検討の結果、右岸側に階段形式の魚道を設置する案が比較的可能性のあることがわかったが、魚道の配置の実現にあたっては、以下のような多くの課題が残った。

右岸側地山斜面に魚道を設置することによる新たな環境への影響。

ダム周辺の植生や魚類等生息状況調査の継続。

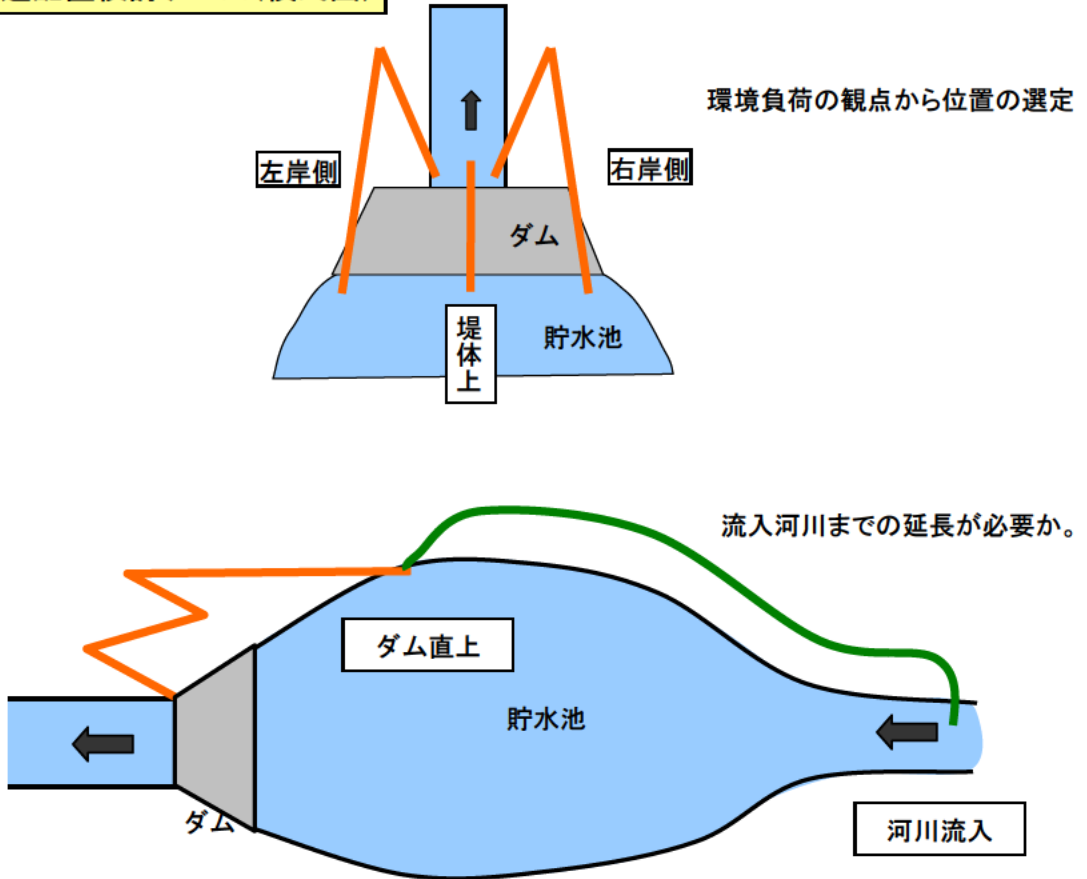
魚道出口をダム貯水池上流の流入河川にまで延ばす等の検討。

環境への影響の検討、事業費等の経済比較検討。

なお、今後も継続して、『縦断方向の河川形状の修復』に向けて『木津川上流河川環境研究会』での討議を踏まえながら調査検討を進めていくこととしている。

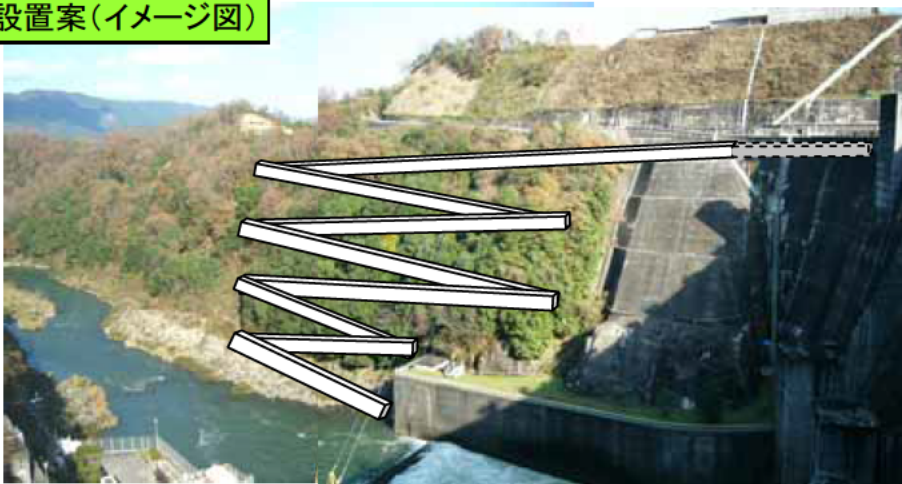
●進捗状況

魚道配置検討ケース(模式図)



これらを踏まえ検討する。

魚道設置案(イメージ図)



高山ダム右岸側階段形式 魚道設置案(イメージ図)